

市バス事業の現状と 運賃改定案について

仙台市交通局

はじめに

日頃より市バス・地下鉄をご利用いただき、誠にありがとうございます。

仙台市交通局は、お客様に安全・安心・快適にご利用いただける市バス・地下鉄を目指して、事業運営に取り組んでいます。

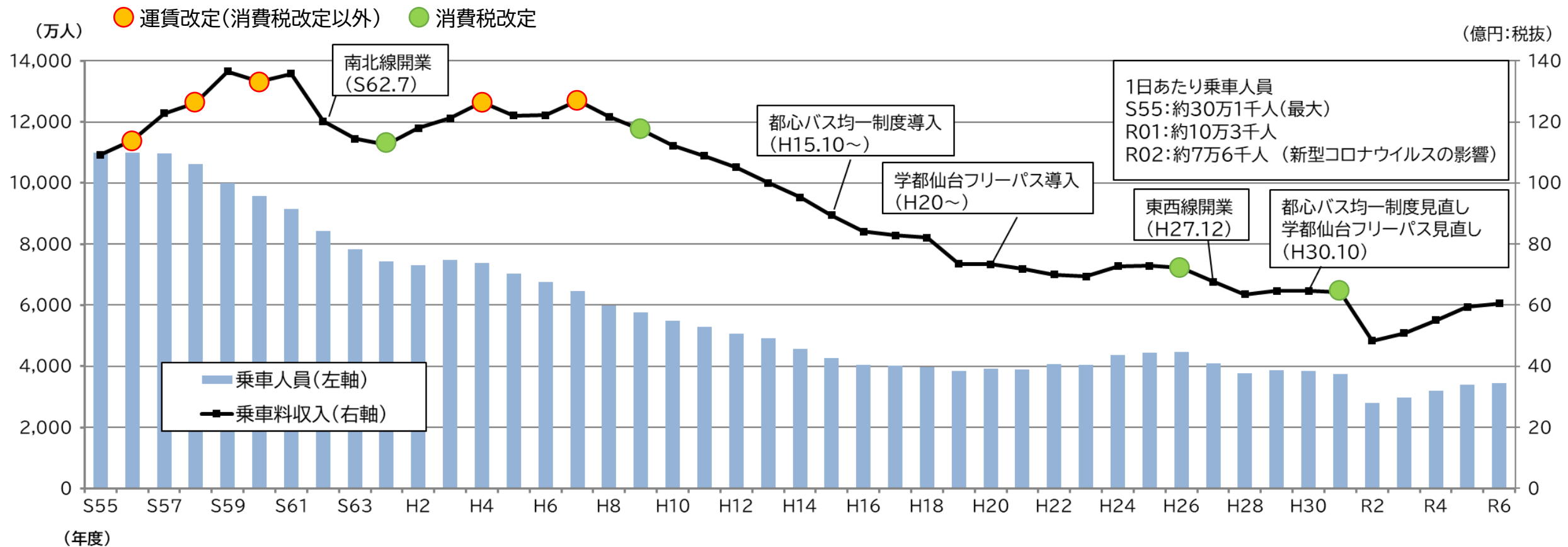
しかしながら、コロナ禍を契機とした事業環境の急激な変化や、原油価格をはじめとした物価上昇の影響などにより、特に市バス事業の経営状況は、より一層厳しさを増しております。

こうした状況下において、市民の生活を支える重要な社会インフラとして、将来にわたって安定的に事業を継続していくために、さらなる経営改善に取り組むほか、令和8年10月1日より、市バス運賃の改定が必要と考えております。

➤ 市バス事業の現状

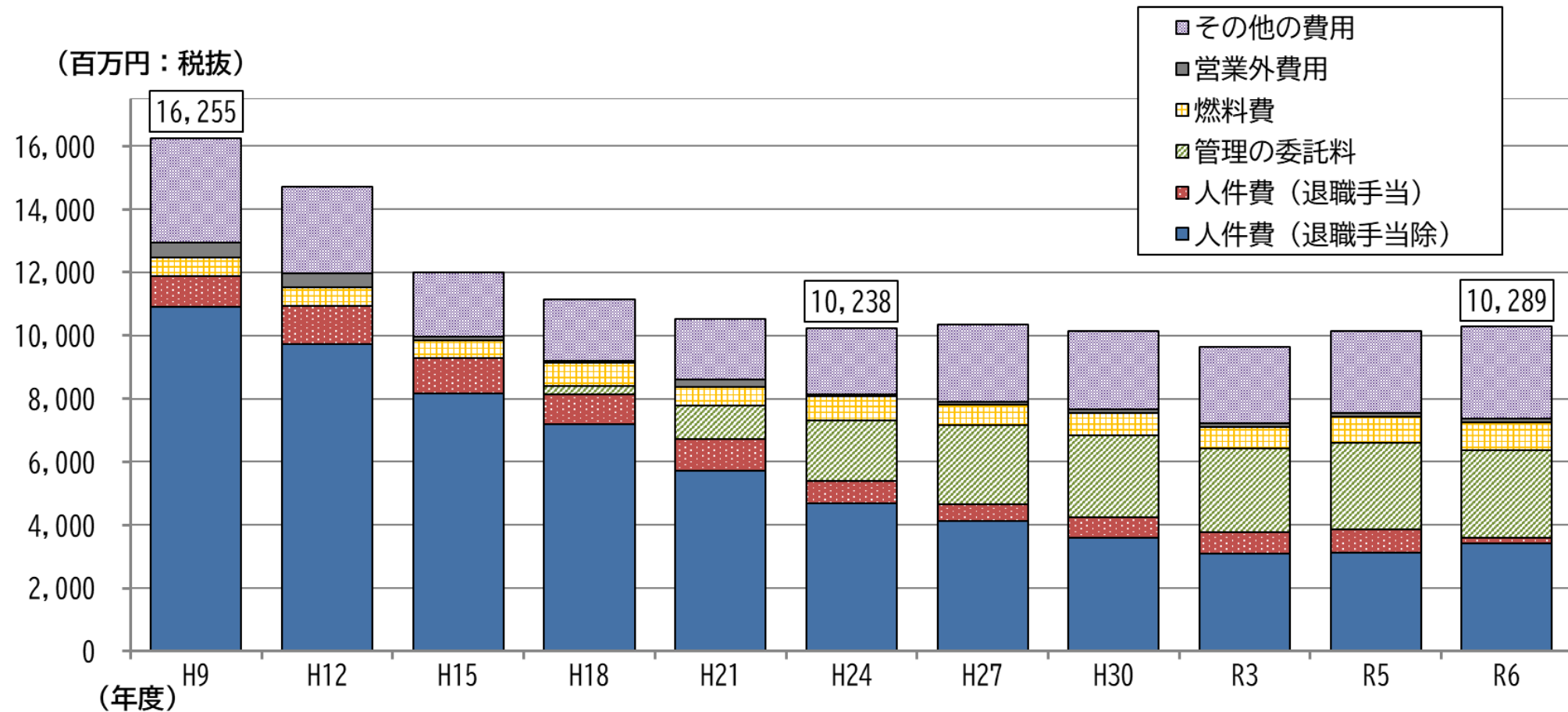
➤ 市バスの運賃改定案

乗車人員と乗車料収入の推移



- ・ピークの昭和55年度には、年間約1億1千万人(1日平均30.1万人)が利用。その後は自家用車等、交通モードの多様化により減少が続き、令和6年度時点においては、約3,453万人(1日平均9.5万人)と、約3分の1まで減少
- ・昭和から平成初期にかけては、経営状況を鑑み、複数回の運賃改定を実施していたが、平成7年の運賃改定を最後に、約30年間、消費税改定以外での全体的な運賃改定を実施していない

これまでの費用削減の取組みを踏まえた事業費用の推移



- ・長期にわたる厳しい経営状況を鑑み、費用の多くを占めている人件費を中心に、着実に費用削減を進めてきたが、平成20年代からは横ばいの状態
- ・近年は燃料費高騰や人材不足の影響により、バス運転業務の管理委託料も上昇傾向にあり、これ以上の人件費を中心とした費用削減の余地は非常に少ない

新型コロナウイルス感染症の影響

1. コロナ禍によるバス事業減収の状況

(単位：万人)

(単位：億円，税抜)

	乗車人員（輸送統計値）						乗車料収入					
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
決算値	3,757	2,791	2,965	3,192	3,394	3,453	64.3	48.3	50.8	55.1	59.4	60.6
対 元年度		▲ 967	▲ 792	▲ 565	▲ 363	▲ 304		▲ 16.0	▲ 13.5	▲ 9.2	▲ 4.9	▲ 3.7
(比)		(74.3%)	(78.9%)	(85.0%)	(90.3%)	(91.9%)		(75.1%)	(79.0%)	(85.6%)	(92.3%)	(94.2%)
対 元年度 累積								▲ 29.5	▲ 38.7	▲ 43.6	▲ 47.4	

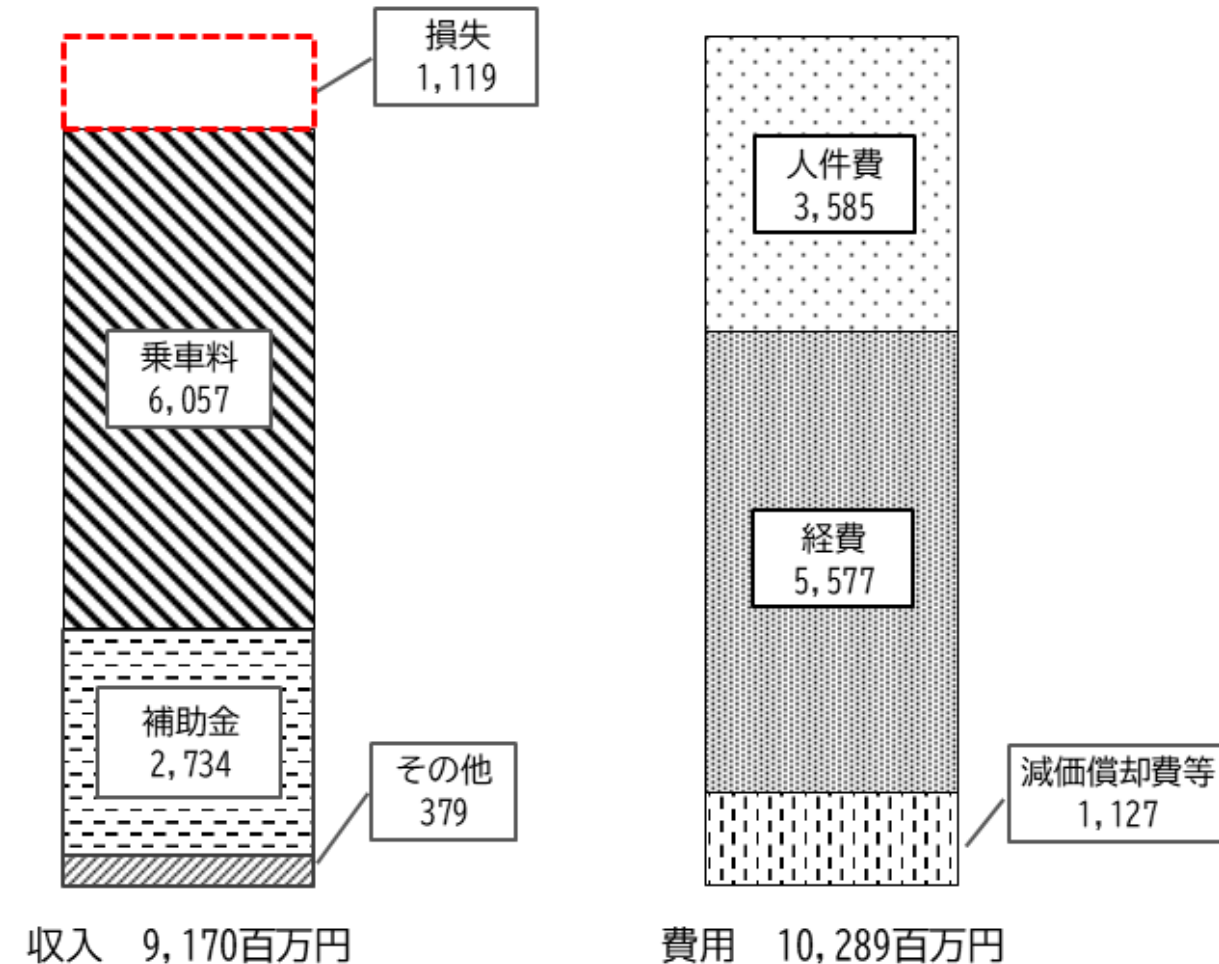
2. 減収対策のための特例的な企業債借入状況

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	計
現経営計画(R3.3策定)	13.0億円	—	—	—	—	—	—	13.0億円
実績(及び予定)	11.5億円	5.0億円	1.0億円	2.0億円	8.0億円	12.0億円	3.0億円	42.5億円
	特別減収対策企業債(19.5億円) (A)				新たな交通事業債(23.0億円) (B)			(A)+(B)

市バスの損益収支(令和6年度決算)

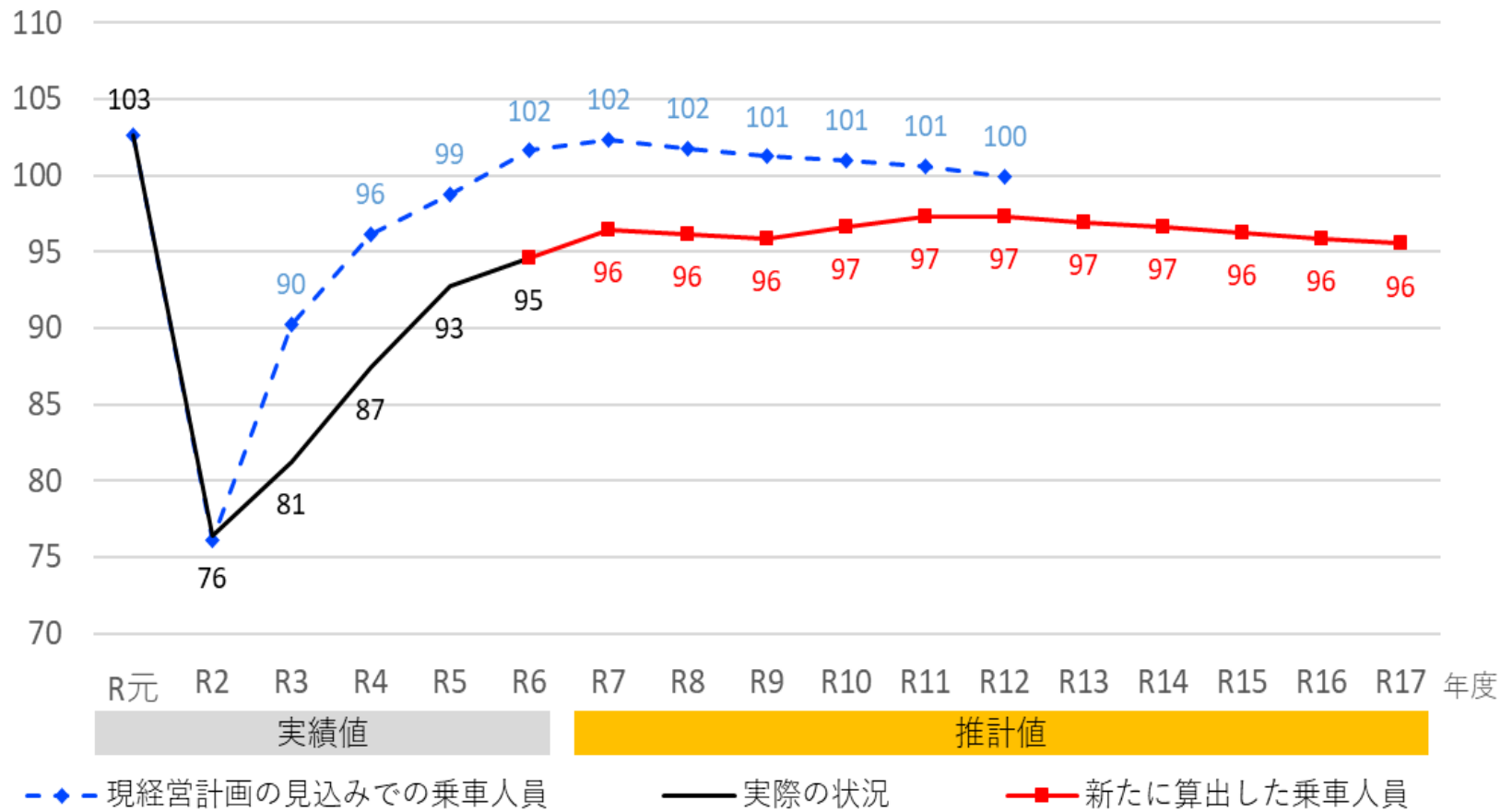
- 令和6年度は、**約11.2億円の純損失(赤字)**を計上
(令和元年度は約5.2億円の赤字)
- **市の一般会計からの補助金約27.3億円(収入全体の約3割)**を受けて約11.2億円の赤字であり、補助金抜きでは**約38.5億円の赤字**となる計算
- **安定的な経営のためにも乗車料収入の確保が重要**

(単位:百万円, 税抜)



市バスの乗車人員見通し

【市バス】一日平均乗車人員の推移（千人）



➤ 令和6年度実績をベースとし、券種ごとに推計を行うとともに、運賃改定や便数調整の影響など様々な要素も勘案しながら、仙台市交通事業経営検討委員会の議論も踏まえ推計

➤ 地下鉄沿線外（地下鉄各駅から半径1km圏外）では少子高齢化と生産年齢人口の減少が続くことにより、乗車人員は令和12年度頃をピークに減少傾向に転ずると予測

- 市バス事業の現状
- 市バスの運賃改定案

市バス運賃改定の方角性

- 市バス事業における安定的な経営のために、令和8年10月の運賃改定により、乗車料収入として15%程度の増収を図る。
- 具体の改定幅は、国への認可申請が必要な普通旅客運賃や通勤・通学定期券に加え、都心バス120円均一運賃などの個別運賃について、全体のバランスの中で決定する。なお、「子育てが楽しいまち・仙台」の実現に向け、学都仙台市バスフリーパスについては価格を据え置く。
- 運賃改定に加え、さらなる経営改善に取り組むものの、企業債の償還額が大きい令和8～12年度については、一般会計からの従来の補助金等に加え、追加の財政支援により対応。

運賃種別ごとの市バス運賃改定案(定期外)

運賃種別		現行	改定後	改定額
普通旅客運賃 【キロ当たり賃率】 現行:39円90銭 改定後:45円90銭	初乗り運賃	160円	190円	+30円
	大人片道 ※現在の運賃が440円以上の場合、 一律70円の改定	170円～230円	200円～260円	+30円
		240円～290円	280円～330円	+40円
		300円～360円	350円～410円	+50円
		370円～430円	430円～490円	+60円
		440円～	510円～	+70円
特別旅客運賃	都心バス120円均一(120円パツ区)	120円	150円	+30円
	東西線結節駅周辺バス100円均一	100円	130円	+30円
一日旅客運賃	120円パツ区一日乗車券 市内区域一日乗車券 近郊区域一日乗車券	300円 650円 1,000円	380円 750円 1,150円	+80円 +100円 +150円
団体旅客運賃	普通団体 学生団体	普通旅客運賃より 10%～20%割引	普通旅客運賃より 10%～20%割引	+30～70円
るーぷる仙台	1回乗車 るーぷる仙台一日乗車券 るーぷる仙台・地下鉄共通一日乗車券	260円 630円 920円	300円 700円 1,000円	+40円 +70円 +80円

※現時点での予定。正式には国の認可後にお知らせいたします。

運賃種別ごとの市バス運賃改定案(定期)

定期種別	改定内容
通勤定期	<ul style="list-style-type: none">・普通旅客運賃値上げ分を反映・10キロまでの割引率を3割引から2.5割引に改定・長距離利用の負担軽減のため、10.1～15キロの区間の3.5割引、15.1キロ以上の区間の5割引は据え置く
区間通学定期	<ul style="list-style-type: none">・普通旅客運賃値上げ分を反映
学都仙台市バスフリーパス	<ul style="list-style-type: none">・据え置く(5,970円/月)
都心バス共通定期	<ul style="list-style-type: none">・特別旅客運賃値上げ分を反映(4,870円⇒6,090円/月)

※現時点での予定。正式には国の認可後にお知らせいたします。

令和6年度決算に上記「運賃種別ごとの市バス運賃改定案」を反映した場合、
定期外 約15.5%増、定期 約14.9%増となり、全体で約15.4%増収となる見込み。

主な区間の運賃比較(予定)1/2

単位:円

区間例	現行		改定後	
	大人片道	通勤定期(1か月)	大人片道	通勤定期(1か月)
仙台駅前 ～ 県庁市役所前	120	4,870(共通定期)	150	6,090(共通定期)
仙台駅前 ～ 東北大学病院前	190	8,080	220	9,900
仙台駅前 ～ 小松島三丁目	230	9,870	260	11,700
仙台駅前 ～ 二の森	230	9,870	260	11,700
仙台駅前 ～ 宮城野区役所前	230	9,870	260	11,700
仙台駅前 ～ 八木山神社前	230	9,870	260	11,700
仙台駅前 ～ 北根一丁目	260	11,210	300	13,500
仙台駅前 ～ 桜ヶ丘七丁目	360	14,800	410	18,450
仙台駅前 ～ 六郷小学校前	390	16,140	450	20,250
仙台駅前 ～ 落合	430	17,950	490	22,050
仙台駅前 ～ 泉ビレジ一丁目	520	21,820	590	26,250
仙台駅前 ～ 茂庭台五丁目	540	22,650	610	27,030
仙台駅前 ～ 定義	1,160	42,200	1,230	46,620

※現時点での予定。正式には国の認可後にお知らせいたします。

主な区間の運賃比較(予定)2/2

単位:円

区間例	現行		改定後	
	大人片道	通勤定期(1か月)	大人片道	通勤定期(1か月)
薬師堂駅 ～ 古城三丁目	100	4,480	130	5,850
八木山動物公園駅 ～ 西高校入口	100	4,480	130	5,850
旭ヶ丘駅 ～ 鶴ヶ谷四丁目北	160	6,730	190	8,550
旭ヶ丘駅 ～ 南光台中学校前	160	6,730	190	8,550
長町駅・たいはつくる前 ～ 中田一丁目	200	8,520	230	10,350
台原駅 ～ 鶴ヶ谷団地入口	230	9,870	260	11,700
荒井駅 ～ 震災遺構荒浜小学校前	240	10,320	280	12,600
泉中央駅 ～ 住吉台西二丁目	470	19,740	540	24,300
泉中央駅 ～ 根白石	470	19,740	540	24,300
愛子駅 ～ 上ノ原	670	27,130	740	31,920

※現時点での予定。正式には国の認可後にお知らせいたします。

今後のスケジュール(予定)

令和8年 2月 仙台市議会令和8年第一回定例会
(仙台市乗合自動車運賃条例改正案提出)

3月 市バス運賃改定認可申請(条例案可決後)

4月以降 改定に向けた周知広報(認可後)

10月1日 市バス運賃改定

最後に

市バス事業においては、市からの補助を受けながら様々な経営改善の取り組みを行い、平成7年3月の運賃改定以降、消費税率の改定時を除き、全体的な運賃を据え置いてきたところです。

しかしながら、今後の乗車人員は、令和12年度頃をピークに減少に転じる見通しであり、一層厳しい経営状況が予想される中にあっても、公営の交通事業者として持続可能な事業運営を目指すためには、あらゆる手立てを講じていく必要があります。

そのため、約30年ぶりとなる運賃改定を行う必要があると考えており、あわせて中長期的かつ抜本的な経営改善の取り組みとして、バス路線のあり方や運賃体系の見直し、保有資産活用などについても、令和8年3月策定予定の新たな経営計画に位置付け、計画期間中の収支均衡を目指します。

今後とも市バス事業につきまして、ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。